

功 績 概 要 書

1 受賞者

住 所 山形市
氏 名 上野 義之
年 齢 63 歳
現 職 山形大学学術研究院教授（医学部内科学第二講座教授）

2 受賞理由

平成 23 年に山形大学医学部教授に着任して以来、本県が東北地方で 2 番目に感染率が高かった C 型肝炎に対する治療薬の開発に尽力するとともに、肝炎対策協議会の中心メンバーとしてウイルス性肝炎の治療の普及を推進し、本県の肝臓がんの罹患率及び死亡率を国内最少とすることに貢献した。その他、B 型肝炎治療薬の開発試験や、胆汁うっ滞性疾患の病態形成メカニズムを最新の解析手法を用いて明らかにするなどの学術的功績を残している。

令和 2 年度から令和 5 年度まで山形大学医学部長を務め、新型コロナウイルス感染症の流行時は、県や山形市と連携したワクチンの大規模接種計画を推進した結果、山形市が全国の主要都市（県庁所在地、政令指令都市、東京 23 区）でワクチン接種率第 1 位となる成果を上げた。

3 具体的功績

- (1) C 型慢性肝炎及び C 型代償性肝硬変に対する薬剤の有効性及び安全性を実証するための国内相臨床試験に北海道・東北地方で唯一参加し、副作用の少ない薬剤の開発に貢献した。また、B 型肝炎ウイルスに感染した日本人患者における肝細胞がんの発症率に関する研究成果を発表し、その中で本県においては国内では割合が少ないウイルスジェノタイプの感染が多く、高齢者では発がん率が低いことを明らかにするとともに、B 型肝炎治療薬開発に関する国際共同試験を実施し、長期に安全性が高い治療薬の有効性を明らかにした。その他にも、指定難病となっている原発性胆汁性胆管炎や原発性硬化性胆管炎といった胆汁うっ滞性疾患の病態形成メカニズムをデジタル PCR 法やレーザーマイクロダイセクション法といった最新の解析手法を用いて明らかにしたことなどの学術的功績がある。
- (2) 本県の C 型肝炎ウイルスの陽性率がかつて東北で 2 番目に高かったことから、県と連携してウイルス性肝炎の検査・治療体制を構築するなどの肝疾患対策を地道に実施していった結果、本県の肝がん罹患率及び死亡率が全国で最も低くなり県民の健康増進に貢献した。また、山形大学医学部長就任時には、新型コロナウイルス感染症の流行を抑制するため、県及び山形市とワクチン集団接種に関する連携協定を締結し、医師や看護師を各地に派遣するなどワクチンの大規模接種計画を推進した結果、令和 3 年 9 月 1 日時点で山形市が全国の主要都市でワクチン接種率（2 回目）第 1 位となった。

※年齢は令和 6 年 11 月 3 日現在